

「聖教類研究会」活動報告

文責 鈴木晋雄

「聖教類研究会」は、川崎大師教学研究研究所が所蔵する聖教の整理、並びにその研究を目的として発足した。

平成 29 年度より当研究所の所蔵する義剛（?～1715）撰『釈論打集類聚』をテキストとして扱うこととなり、今年度で四年目に入った。義剛は江戸期に活躍した高野山の学僧であり、本書の他にも『菩提心論教相記講要』等多数の著作がある。表紙に日付が確認できることから本書を用いた講義が行われていたことも推測でき、高野山上における『釈摩訶衍論』の修学状況を知りうる貴重な資料といえる。

研究会発足当初は翻刻・書き下し・和訳の完成を目指していたが、『釈摩訶衍論』の難解な内容から和訳に労を要し、遅々としてペースがあがらないため、本年度より翻刻・書き下しに的を絞り、まずは読了することを目指すことにした。

現在は、『釈摩訶衍論』巻一「立義分中法門～是名為本数」（大正 32・600 頁上）に対する注釈箇所を終えたところである。活動ペースはゆっくりであるが、若手研究員が一丸となって、難解な『釈摩訶衍論』、そして『釈論打集類聚』に立ち向かっている。

研究会のメンバーは以下の通り。

- ・川崎大師教学研究研究所前所長 福田亮成（研究会代表）
- ・川崎大師教学研究研究所研究員 駒井信勝
- ・川崎大師教学研究研究所研究員 別所弘淳
- ・川崎大師教学研究研究所研究員 鈴木晋雄
- ・川崎大師平間寺教学課課員 佐竹隆信

なお、昨年度より『釈摩訶衍論』を専門とする本多隆仁先生（大正大学元教授）にも時おり参加いただき、ご指導を仰いでいる。ご多用にも関わらず、ご助言いただいた本多隆仁先生には心より感謝申しあげる。

『羯磨文談義』研究会 活動報告

文責 大谷由香

本研究会は『羯磨文談義』の翻刻・研究を目的として発足した。当初は大正大学図書館所蔵本（旧平等心王院所蔵本）のみが唯一の写本と考えられたが、その後研究会において、西大寺所蔵本、川崎大師所蔵本（旧新大仏寺所蔵本）が検出された。大正大学図書館所蔵本を底本とし、西大寺所蔵本・川崎大師所蔵本を対校本として翻刻を行っている。

研究会のメンバーは以下の通り。

- ・川崎大師教学研究所研究員・大正大学非常勤講師 別所弘淳(研究会代表)
- ・大正大学名誉教授 苫米地誠一
- ・龍谷大学特任講師 大谷由香
- ・川崎大師教学課課員 佐竹隆信
- ・大正大学大学院博士後期課程満期退学 池田友美

『羯磨文談義』は、受戒時の羯磨作法に関する疑問解決のための講義録であり、康暦二年（1380）時の講義を英空が筆記したものである。講義は『瑜伽師地論』菩薩地に記される弥勒作とされる受菩薩戒時の羯磨を使用した通受戒による得戒を骨子とする内容であり、鎌倉期の戒律復興運動の画期とされながら、実態が不明であった通受の受戒法を解説する講義の記録である。

本年度までに三十七丁の底本翻刻と対校が完了予定であったが、コロナウィルス感染症の拡大により研究会の開催ができず二十七丁表までの対校を終了した時点で年度を終えた。翻刻と対校が終了次第、内容の精査に入る。